

今年こそ師走は「佐久第九」！ 歓喜・感動をご一緒に！

2001(平成13)年12月、コスモホール開館10周年記念事業としてスタートした本演奏会は、コロナ禍による2年の中断はあったものの、市民のつくる師走の「第九」として多くの皆様に親しまれ、おかげさまでここに第20回を迎えることができました。

今回は節目の記念演奏会として指揮者にバルカン室内管弦楽団音楽監督、コンボフィル首席指揮者などとして世界的に活躍されている柳澤寿男氏をお迎えし、今日まで育ててくださった皆様に感謝しつつ、これまで培った力を発揮して最高のステージをお届けします。一昨年、昨年のコロナ禍によるブランクを超えて「奏で継ぎ、歌い続けるみんなの佐久第九」として、この一年の国内外の様々な出来事や日々の暮らしを回顧し、一年の総決算と新しい年への願いを込めて歓喜・感動をご一緒しましょう。

指揮者 柳澤 寿男 (やなぎさわ としお)



パリ・エコール・ノルマル音楽院オーケストラ指揮科に学ぶ。2000年東京国際音楽コンクール(指揮)第2位。指揮を佐渡裕、大野和士の各氏に師事。スイス・ヴェルビエ音楽祭指揮マスタークラスオーディション合格。ジェイムズ・レヴァイン、クルト・マズアの各氏に師事。2005-2007年、マケドニア旧ユーゴ国立歌劇場首席指揮者。2007年、国連コンボ暫定行政ミッション下のコンボフィル首席指揮者に就任。同年、旧ユーゴの民族共栄を願ってバルカン室内管弦楽団(BCO)を設立。ニューヨーク、ウィーン、ベオグラード、ジュネーヴ国連欧州本部等でWorld Peace Concertを開催し、バスカル・ロジェ、諏訪内晶子、ペーテル・ヤブロンスキー各氏等と協演。2022年

10月、ローマ・パルコ・デッラ・ムジカにて、ローマ歌劇場管弦楽団の楽団員をBCOに交え、コリヤ・ブラッハー氏と協演。オーケストラを通じた地域和平への評価により、コンボ大統領勲章(文化功労賞)を授与。[ドヴォルザーク・チャイコフスキー:弦楽セレナーデ(ベルリン・アウディーテ)]をリリース。また、サンクトペテルブルク響、プラハ響、ベオグラード国立歌劇場、セルビア放送響、サラエボフィル、アルバニア放送響等に客演。日本国内では札幌響、仙台フィル、新日本フィル、日本フィル、東京都響、東京フィル、東京響、アンサンブル金沢、名古屋フィル、セントラル愛知、京都市響、大阪フィル、大阪響、日本センチュリー響、関西フィル、兵庫芸術文化センター管、九州響等に客演。また、ポップスとクラシックを融合するビルボードクラシックス等の指揮者を務め、玉置浩二、石井竜也、八神純子、タケカワユキヒデ、大黒摩季、岩崎宏美等アーティストと共演。現在、BCO音楽監督、コンボフィル首席指揮者、ベオグラード・シンフォニエッタ名誉首席指揮者、坂本龍一氏が音楽監督を務める震災復興のための東北ユースオーケストラ指揮者、京都フィルハーモニー室内合奏団ミュージック・アドバイザー。書籍「バルカンから響け! 歓喜の歌」。

佐久室内オーケストラ

佐久地域を中心に活動しているオーケストラ。1993年に創立以来、毎年10月にコスモホールにて定期演奏会を行っている。永年にわたり原博道先生の指導を受け、東信地域を代表するアマチュアオーケストラとして成長、現在は寺島克彦先生が指導・指揮にあたっている。ソリストとの共演においても日本を代表するピアニスト若林顕氏及びバイオリニスト和波孝禧氏や中澤きみ子氏、バリトンの宮本益光氏など多彩なソリストを招聘している。

現在団員は50名、職業・年齢も様々なアマチュアプレーヤーが集まり、演奏することを何よりの楽しみとして、週1回の練習に励んでいる。

クラシック音楽を生のおけるオーケストラで聴く素晴らしさをより多くの皆様に体験していただくことにより、その感動を共に味わいながら、地域の音楽文化向上に寄与すべく活動しています。

コスモホール佐久第九合唱団

第20回記念演奏会の合唱団は、6月に募集を開始し、7月15日の発会式でスタートしました。3年振りの演奏会とあって「第九を歌いたい」と佐久地域を中心に小学生、現役社会人、主婦、退職者など10代から80代までの幅広い年齢階層の方々が参加しています。今回は初めての方が多く、全体練習前の初心者のための特別練習には沢山の方が参加しています。初心者、全体、パートの練習メニューはこれまで通りですが、コロナ感染拡大防止のため、マスク着用、団員同士の間隔を確保するため客席を使った練習、参加者数に応じたパート練習会場の選定、換気タイムの設定などの対策をとって練習しています。

初めての方から連続20回のベテランまで「第九」によって結ばれた多彩なメンバーが、本番での「歓喜、感動」を目指して毎週金曜日にコスモホールを中心に練習に励んでいます。

ソプラノ 大山 亜紀子 (おおやま あきこ)



中学二年生まで白田で育つ。東京藝術大学音楽学部声楽科卒業。同大学大学院修士課程オペラ科修了。第39回日伊音楽コンクールソ入選。第74回日本音楽コンクール第2位及び岩谷賞(聴衆賞)受賞。第5回上毛新聞芸術文化賞(音楽部門)受賞。東京二期会にて2006年プッチーニ作曲『蝶々夫人』題名役でデビューし、09年にも再演を果たす。その後ヴェルディ作曲『仮面舞踏会』アメリア役、ヴェルディ作曲『オテロ』デズデモナ役、ヴェルディ作曲『ファルスタッフ』アリーチェ役、プッチーニ作曲『エドガール』フィデアリア役等を演じる。また、新国立劇場鑑賞教室にてプッチーニ作曲『トスカ』、プッチーニ作曲『蝶々夫人』のそれぞれ題名役にて出演する。ベートーヴェン作曲『第九』やヴェルディ作曲『レクイエム』等のソリストを務める。二期会会員。

アルト 飯森 加奈 (いもり かな)



名古屋芸術大学音楽学部卒業。同大学大学院音楽研究科声楽専攻修了。修了後イタリア・ミラノにて研鑽を積む。これまでに、オペラ『蝶々夫人』スズキ役、『フィガロの結婚』マルチェリーナ役等に出演の他、『第九』、ヴェルディ『レクイエム』、モーツァルト『レクイエム』『戴冠ミサ』、ペルゴレージ『Stabat mater』等のソリストとして多数出演。05年・09年・22年にはソロリサイタルを開催。美術館等でのコンサートの企画開催も数多い。各地での各種コンサート、朗読劇への出演など活動は多岐に渡る。合唱団の指導や、後進の指導も行っている。佐久市出身。

テノール 倉石 真 (くらいし まこと)



小諸市出身。東京藝術大学声楽科卒業、大学院オペラ研究科修了。イタリア・ボローニャ国立音楽院で学ぶ。これまでに新国立劇場、日生劇場、ジェノヴァ歌劇場、トリエステ歌劇場などにソリストとしてオペラに出演、中でも2014、16年團伊玖磨作曲オペラ『夕鶴』のひより役として故佐藤しのぶの相手役を全国18回公演とめ高い評価を得た(演出:市川右近、美術:千住博、衣裳:森英恵)。最近ではさわかみオペラ振興財団の主催するジャパン・オペラ・フェスティバルで名古屋城、平城京跡、二条城などを利用した野外オペラにソリストとして出演を続けており、ボローニャ歌劇場オーケストラ及びパルマ、ヴェローナ各歌劇場合唱団とも共演を重ねている。日本声楽アカデミー会員、東京音楽大学講師、聖徳大学兼任講師

バリトン 近藤 圭 (こんどう けい)



佐久長聖高校卒業。国立音楽大学を経て同大学院首席修了。新国立劇場オペラ研修所修了。ロームミュージックファンデーション奨学生として渡独し、ハンブルク音楽院を審査員全員一致の最優秀で修了。2013年リヒャルト・ワーグナー協会奨学生。『ドン・ジョヴァンニ』題名役でオペラデビュー。二期会では『フィガロの結婚』題名役、『ドン・ジョヴァンニ』マゼット、『魔笛』パパゲーノ、『ナクソス島のアリアドネ』ハルレキン、『タンホイザー』ピーテロルフ等演じ、新国立劇場『魔笛』パパゲーノ、『夏の夜の夢』ディミートルias、その他日生劇場、小澤征爾音楽塾、びわ湖ホール等国内の主要プロダクションに数多く出演。また、『四季』『カルミナ・ブラーナ』等のソリストや「冬の旅」全曲演奏会等、コンサートでの活躍も評価されている。二期会会員